

埼玉県における性器クラミジア抗体検査の状況 (平成25年度)

大島まり子 長谷川紀美子 山本徳栄 青木敦子

Performance of *Chlamydia trachomatis* serological examination in Saitama Prefecture
(April 2013- March 2014)

Mariko Ohshima, Kimiko Hasegawa, Norishige Yamamoto and Atsuko Aoki

はじめに

性器クラミジア（以下、クラミジア）感染症は、*Chlamydia trachomatis*を原因とする感染症で、感染症法による五類感染症として定点からの報告が義務付けられている^{1,2)}。本県では「埼玉県エイズ及びその他の性感染症対策要綱」に基づき、保健所で検査の受付を行い、当所で抗体検査を行っている。今回は、平成25年度におけるクラミジア抗体検査の実施状況を報告する。

対象及び方法

- 1 対象期間：平成25年4月～平成26年3月。
- 2 対象者：保健所で実施する「埼玉県エイズ及びその他の性感染症対策要綱」による相談・検査受検者のうち、クラミジア抗体検査を希望した者
- 3 検査方法：血清を用い、ELISA法（ヒタザイム クラミジア：日立化成工業）によりIgA及びIgG抗体を測定した。

結果判定は、各々の抗体に対する陽性及び陰性対照血清の測定値から算出したカットオフインデックスにより行い、IgA、IgGのいずれか、または、双方の値が陽性の場合に陽性検体とした。

結果及び考察

平成25年4月から平成26年3月までの受検者数は744名であり、受検者の年齢は15歳から77歳であった。

年代別・男女別の受検者数を表1に示した。受検者数が多かったのは、20歳代の265名(35.6%)及び30歳代の249名(33.5%)であり、これらを合わせると全受検者の約7割を占めていた。男女別では、15～19歳及び20歳代で女性が男性より多かったが、他の年代では男性が多かった。全体では、男性441名(59.3%)、女性303名(40.7%)

で、男性は女性の約1.5倍であった。

表1 年代別・男女別受検者数

(平成25年4月～平成26年3月)			
年齢(歳)	性別		計(%)
	男性	女性	
15～19	8	11	19 (2.6)
20～29	113	152	265 (35.6)
30～39	156	93	249 (33.5)
40～49	79	34	113 (15.2)
50～59	31	6	37 (5.0)
60～69	41	4	45 (6.0)
70～77	13	3	16 (2.1)
合計	441 (59.3)	303 (40.7)	744 (100)

抗体別・男女別の検査結果を表2に示した。抗体陽性者は、123名(16.5%)であった。男女別陽性率は、男性14.1%(62/441)、女性20.1%(61/303)で、女性が高かった。抗体別でみると、IgA陽性が6.0%、IgA・IgG陽性が4.6%、IgG陽性が5.9%と、IgAとIgGの陽性率は、ほぼ同率であった。IgA陽性は男性6.2%、女性5.9%、IgA・IgG陽性は男性2.7%、女性7.3%、IgG陽性は男性5.2%、女性6.9%と、IgA陽性のみ男性が高かったが、IgA・IgG陽性、IgG陽性は女性が高かった。

表2 抗体別・男女別検査結果

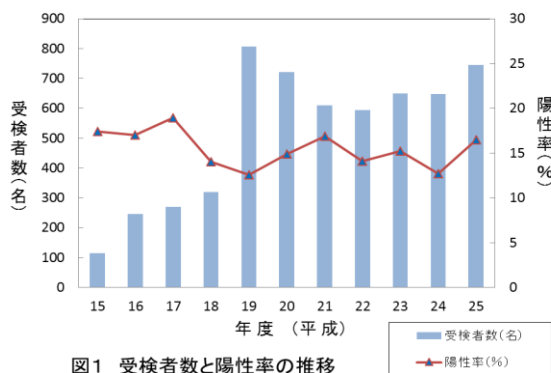
(平成25年4月～平成26年3月)			
抗体別	男性 (%)	女性 (%)	合計 (%)
IgA陽性	27 (6.2)	18 (5.9)	45 (6.0)
IgA・IgG陽性	12 (2.7)	22 (7.3)	34 (4.6)
IgG陽性	23 (5.2)	21 (6.9)	44 (5.9)
陽性小計	62 (14.1)	61 (20.1)	123 (16.5)
判定保留	19 (4.3)	11 (3.6)	30 (4.0)
陰性	360 (81.6)	231 (76.3)	591 (79.5)
合計	441 (100)	303 (100)	744 (100)

年代別抗体陽性数を表3に示した。年代別陽性率は、15～19歳代26.3%(5/19)、50歳代24.3%(9/37)が高率であったが、他の年代は、いずれも20%未満であった。

表 3 年代別抗体陽性数
(平成25年4月～平成26年3月)

年齢(歳)	受検者数	抗体陽性数	陽性率(%)
15～19	19	5	26.3
20～29	265	42	15.8
30～39	249	38	15.3
40～49	113	19	16.8
50～59	37	9	24.3
60～69	45	8	17.8
70～77	16	2	12.5
全体	744	123	16.5

埼玉県における平成15年度からのクラミジア抗体検査受検者数と陽性率の推移を図1に示した。受検者数は、平成19年度に急増した後は平成22年度まで緩やかに減少していたが、平成23年度以降増加傾向となっている³⁾。また陽性率は、増減はあるものの15%前後を推移している。



クラミジア感染症の定点からの平成25年患者報告数は、全国で25,606名⁴⁾、埼玉県で1,620名⁵⁾であった。クラミジア感染症は、淋菌感染症・尖圭コンジローマ・性器ヘルペスウイルス感染症を含めた性感染症定点報告数のうち全国で52.1%⁴⁾、埼玉県で52.0%⁵⁾を占める最も多い性感染症である²⁾。また、クラミジア感染症は、自覚症状が乏しく無症候病原体保有者が多数存在することから蔓延防止対策として、検査の受診を推進し、早期発見、早期治療につなげることが重要である。

文献

- 1) 厚生労働省：性器クラミジア感染症。
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansen/shou11/01-05-31.html>
- 2) 性感染症 診断・治療 ガイドライン 2011：性器クラミジア感染症. 日本性感染症会誌, 22, 60-64, 2013.
- 3) 大島まり子, 長谷川紀美子, 山本徳栄 他：埼玉県にお

ける性器クラミジア抗体検査の状況(平成24年度). 埼玉県衛生研究所報, 47, 73-74. 2013.

- 4) 厚生労働省：性感染症報告数。
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html>
- 5) 埼玉県衛生研究所感染症情報センター：感染症発生動向調査 月報. 2014年1月号.